

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	長野県高齢者生活協同組合	代表者	伊澤 敏	法人・事業所の特徴	「ひとりぼっちにならない、しない」をスローガンに持つ「長野県高齢者生活協同組合」を母体に持ち「地域のより所」を目指して設立しました。通い・訪問・宿泊、それぞれのサービスを馴染みのスタッフがを行うことで、利用者に安心感を持ってもらうことが出来ます。また、利用者の都合による通いから訪問、訪問から泊まり等、サービスの変更依頼にも柔軟に対応して家族の負担を軽減します。
事業所名	かがやきの家笹部	管理者	石川真奈美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	人	1人	1人	1人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ募集を幅広く行い人員不足解消を目指す。 常勤者の「認知症実践者研修」参加をすすめ、ケアに関する知識やスキルアップを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤スタッフが昨年度から3名退職に対して年末に2名補充が出来たものの新規の受け入れに支障が出た。 内部研修は計画を立てて実施出来たが、外部研修の参加が出来ず。 	<ul style="list-style-type: none"> 内部研修は出来ているのは分かったが、外部研修の常勤職員の参加が出来ていない。 スタッフの補充が難しいのはどこの事業所でも聞かがこの先どうなるのかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 体制を作る為に、求人サイトの活用を広げて採用していく。 常勤スタッフから外部研修を受講しスキルアップを図っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員さん始め地域の皆さんが相談に訪れるようにするため地域との交流を進めていく。 事業所の取り組みの地域への発信について分かりやすい物を作成し行う 	<ul style="list-style-type: none"> 地区のオレンジカフェへの参加 運営推進会での意見交流以外に地域との交流を作れず地域で支える支援について理解進まなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員が利用者のおやつを事業所に届けてくれた事があった。 町会長より文化祭等のお誘いがあったが人員体制取れず参加が難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生協の懇談会等で地域の組合員の協力を仰ぎ、組合として地域活動に参加していく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に近隣病院や包括支援センター等を訪問し受け入れ状況やサービス内容をお知らせしていく。 他の事業所と連携し事業の在り方について意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 他職種連携についてはケアマネが主となって行うことが出来た 市内の小規模多機能事業所連絡会に参加し情報交換が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな変わりはないが他の事業所との横の繋がりは続けているので良かったと思う。 ポスティングチラシが事業所の理解の参考になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所スタッフだけでなく地域在住の組合員も含め地域へのPRを強化する。 事業所連絡会の活動には引き続き関わっていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 地区役員と情報交換の機会を作り、町会の取り組みに事業所として参加していく土台を作る。 地域にある本人を支えるための資源について幅広く調べていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 近所にお住まいの方や県外らの家族の急な来訪の受け入れも対応した。 地域の取り組みに参加する計画は立てたが結局スタッフ体制が取れず参加できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との関りは、体制が取れず困難だった。 出向く活動も、こちらで考案したかったが、業務に追われ話し合う事すら出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ体制を作ることが第一だが、生協の理事、総代などが中心となって地域活動との関りを強化するようにしていく
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議での地域の情報収集の機会を増やすと同時に小規模多機能サービスについての理解を深めてもらうようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議では、様々な意見を頂き、チラシの配布なども実施出来たが、理解を深めてもらう取り組みとはならなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今期は民生委員の交代もあったので地域評価シートのタイミングが悪かった。 町会での課題等、具体的に話し合う事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理者以外のスタッフ、センター長も運営推進会議に参加できるようにし、より多く地域とのつくれるように働きかけていく。 鎌田地区のイベントに参加する機会を作る。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 事業所として災害時にどのように貢献できるのか検討していく。 災害時の町会ネットワーク体制に入っていけるように町会長さん始め、こまめに情報交換の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対応や避難訓練については実施出来たが、地域の防災訓練には参加出来なかった。 災害時の地域との連携の在り方については深められなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の町会の対応、現状をお聞きした。町会長より次年度から最終避難所で、誰がどのように誰と連携しどのような支援を受けられるのか見直す予定との情報交換が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対応等を町会と一緒に進めて、事業所でも福祉避難所として、どのような体制が作れるか検討し発信していく。 事業所のBPCを基に年2回の防災訓練で改善する。